久我（こが） 羽束師（はづかし）

久我・羽束師は鴨川、桂川、西高瀬川の三川が合流する地点の右岸に位置し長岡京跡の東端部にあたります。河川に沿って斜めに通る古道久我畷（なわて）は、北は桂川を経て鳥羽に、南は山崎につながる重要な道路です。久我地域は、平安時代後期以降、村上源氏の一流・久我家の荘園で別荘「久我殿」を構えたところで、古絵図などに「北殿」や「馬場」など関連する字名（あざな）が残り、跡地には近世に建てられた寺社も多くみられます。それ以前は、古代の有力氏族である賀茂氏の山背（城）進出の一拠点とされ、鴨森（かものもり）大明神（久我神社）が名残りをとどめます。羽束師地域は長岡京が造営されるまで、羽束（はつかし）氏一族が居住していたところとされ、氏神の羽束師神社が知られています。中世、南北朝動乱以後、防御のための土塁や堀に囲まれた在地領主の居館跡が点在し、今も道沿いには民家の石垣や用水路にその跡がしのばれます。
マップでは東土川をスタートし寺社や石碑などを巡りながら多くの歴史が埋もれている久我・羽束師を紹介しています。

■久我・羽束師地域の略史

時代	事項
弥生	東土川や羽束師などに人々が住み始める
古墳	北西部の向日丘陵に前方後円墳が築かれる　羽束師には継続して集落が営まれる
飛鳥・白鳳	西側の丘陵に寺院の造営が開始される
奈良	749年 「波都賀志（はつかし）神」が「羽束里（はつかり）」とともに史料にみられる
長岡京	784年 長岡京造営　久我・羽束師は京内の東部にあたる
	同年 桓武天皇が羽束師神社を宮中神として勧請する
	羽束師地区に川原寺が建てられ「川原寺」の小字名が残る
平安	794年 平安京に都が遷る、平安京南西の近郊地となる
	901年 菅原道真が太宰府に赴く際、羽束師神社に参拝する
	久我畷が築かれ京と西国を結ぶ要衝となる
	1033年 久我家の祖・右大臣源顕房が別荘「久我殿」を構える
	1087年 白河上皇が久我殿に行幸する
	1113年 源雅実が菱妻神社を創建する
中世	1200年 曹洞宗開祖の道元禅師、久我の地で生まれる
	久我庄や久世庄など貴族や社寺の荘園管理を行う領主の館が造られる
	1333年 久我畷の戦いが起こる
	1363年 久我荘と鳥羽荘の戦いが起こる
	荘園領主の館が土塁と堀に囲まれた城館となる

久我殿跡

平安時代後期に久我家の邸宅があったところです。一帯は、河川や池、森が幽玄に広がり、遠くに山々が連なって自然の景観が多く、「久我の水閣」とも呼ばれました。久我家の祖となる源顕房の別邸に始まり、それ以降、長い間にわたって久我庄は苗字荘園として久我家の支配が続きました。

久我橋より久我庄方向を望む

久我家系図

久我 羽束師の居館跡

羽束師菱川城跡、志水落合城跡、古川城跡、上久我城跡、東土川城跡が知られ、堀や土塁に囲まれた室町時代の面影を今に伝えます。

東辺の堀跡が水路として残る古川城跡

南辺の堀跡が水路として残る上久我城跡

北辺の土塁跡が残る羽束師菱川城跡

桂川の恵みと水害

この地域は古来より桂川の水利で豊かな米や野菜を京に供給していました。一方、水害も数多く発生したため、蔵の位置を高くする段蔵造りの屋敷や、米や麦を運ぶ小舟が今も家の軒下に見られます。

久我・羽束師の新鮮な野菜や稲田

神川小学校に保存されている吊り舟

段蔵造り

伏見区役所　神川出張所

伏見区役所 神川出張所の玄関ロビーには久我・羽束師地域の昔なつかしい風景写真や発掘調査の遺跡写真、また当地域の歴史年表などのパネル展示がされています。

- ●開所時間／8:30～17:00
- ●休　　日／土・日・祝日

神川出張所

ロビーの展示

久我・羽束師の古社

菱妻神社（ひしづまじんじゃ）

久我家の祖先である源雅実が、藤原氏の氏神である奈良春日大社より天児屋根命（あめのこやねのみこと）を勧請して火止津目（ひしづめ）大明神を崇めたのを始まりとします。1113年の創建で、火止津目を菱妻（ひしづま）と改めて現在に至ります。上久我村の鎮守の社となっています。

久我神社（こがじんじゃ）

京都の古社の一つで、祭神は上賀茂神社と同じ建角身命（たけつぬみのみこと）・玉依比売命（たまよりひめのみこと）・別雷神（わけいかづちのかみ）の三神です。また、久我の地に勢力を誇った久我氏の祖神を祀っています。社伝によれば長岡京遷都に際し、王城の良角（うしとらすみ）の守護神として祀ったのが始まりとされます。

神川神社（かみかわじんじゃ）

詳しい創建年代は明らかではありません。桂川舟運の安全祈願のため、摂津住吉社を勧請したのが始まりとされ、『式内社の研究』では現在の御旅所にあった神川社を合祀して神川神社になったとしています。

羽束師坐高御産日神社（はつかしにますたかみむすびじんじゃ）（市指定史跡）

社伝では5世紀の創建とされる古社です。『延喜式』に名神大社に列せられています。665年に天智天皇が中臣鎌足に命じて再建したと伝えられ、また784年長岡京遷都の際に宮中神の一つとして桓武天皇により勧請したとされます。

久我の日蓮宗寺院

久我村には、妙昌寺・満願寺・本清寺（ほんせいじ）・妙真寺・福生寺（ふくしょうじ）などの日蓮宗の寺があります。これらの寺々は、日蓮宗の信者で久我家の諸太夫であった竹内季治（すえはる）が久我預所を管理したことにより、1567年に宗派を日蓮宗に改宗し今日にいたっています。

妙昌寺

満願寺

本清寺

妙真寺

福生寺

久我畷

西国街道と京を結ぶ久我畷は重要な古道で、下久我から南西に向けて直進していました。北東は桂川を経て秋の山（鳥羽離宮南殿）付近で鳥羽作道に合流し平安京の正門である羅城門に至ります。南西は山崎から西国街道に通じる道でした。

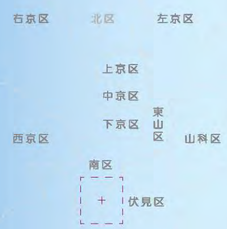
昔の名残りある久我畷付近（府道123号線）

羽束師川記念道標

Kyoto City Archaeological Research Institute

40

久我 羽束師



～文化財と遺跡を歩く～
京都歴史散策マップ

発行　京都市・（公財）京都市埋蔵文化財研究所

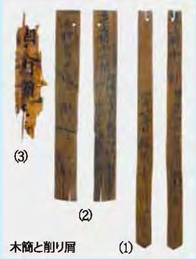
久我 羽束師周辺の発掘調査

久我 羽束師は京都市街の南東にあたり桂川右岸に広がる平野部です。延暦3年(784)に造営された長岡京の左京域にあたります。また、平安京造営時に敷設されたといわれている古道・久我畷(こがなわて)が、北東から南西へ斜めに通りその一部は近世までは京都と大阪を結ぶ主要道路としての役割を担っていました。久我地区には平安時代後期に久我氏によって別邸・久我殿が造られました。以後、久我家の所領久我庄として近世まで存続した地域で、久我家に代々伝えられた『久我家文書』(重要文化財)には、当家はこの一帯に中世を通して広大な邸宅を築き、上皇をはじめとして多くの公家が当地を訪れていたことなどが記されています。発掘調査では、久我殿の南にあたる久我東町(こがあずまちょう)で中世の「環濠集落」と呼ばれる濠が巡らされた村跡が発見され、建物跡、井戸跡や墓跡などが見つかりました(久我東町遺跡)。南に接する羽束師地区では羽束師志水町をはじめ古川町や菱川町で発掘調査が行われています。とくに志水町では平安時代後期から鎌倉時代にかけての堀跡や建物跡、墓跡などが見つかりました(羽束師志水町遺跡)。さらに長岡京跡や弥生時代から奈良時代の集落跡・水田跡が見つかった羽束師遺跡など、近年は発掘調査も増加して多くの成果が得られつつあります。

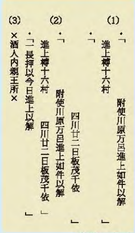
❶ 長岡京左京一条三坊八町跡　宮ノ脇遺跡

1988年12月に南区久世東土川町で発掘調査が行われ、長岡京期の礎物跡や柵列跡と流路跡が発見されました。流路跡からは木簡と呼ばれる墨で文字が書かれた木札約300点、削り屑3500点以上が見つかりました。木簡と削り屑は流路の西側からまとめて捨てらていたことが明らかになりました。木簡・削り屑には「樽(くれ)」・「長押(なげし)」などの物品名、「川原万呂」・「卜部清成」などの人名、「近衛府」・「兵衛府」・「中務省」などの役所名がみられます。「樽」とは『延喜式』によれば長さ十二尺、幅六寸、厚さ四寸の未加工の板材のことです。調査地は平安京遷都前に桓武天皇が仮御所とした長岡京の東院造営のための材木や物資荷揚げ地や集積場と考えられています。

多量の木簡が見つかった流路跡



木簡と削り屑


(1)・「　　」
　　準上尊十六村　　財使川原万呂準上如件以解
(2)・「　　」
　　準上尊十六村　　財使川原万呂準上如件以解
　　四川廿二日従茂子牧
(3)・「　長持以今日準上以解　　」
　　×姉人内親王所×

木簡の釈文

❷ 長岡京左京二条三坊十一・十四町跡　東土川遺跡

1987年に河川の改修工事に伴う発掘調査が行われ、長岡京期の路面跡や側溝跡が見つかりました。長岡京造営以前の東土川遺跡も重なっており、方形の墳丘周囲に溝を巡らせた弥生時代中期の方形周溝墓とよばれる墓跡も見つかりました。墓跡は一辺約12mで、墳丘上部は削平され周囲に幅2m、深さ0.4mの溝が巡っていました。付近一帯は弥生時代に共同墓地が営まれていたと思われます。

弥生時代から長岡京期の遺構のようす

見つかった弥生時代中期の方形周溝墓

❸ 久我東町遺跡

1982～1983年にかけて、市営住宅整備工事に伴う発掘調査が実施され、鎌倉時代後半から室町時代に造られた濠に囲まれた環濠集落跡であることがわかりました。環濠の内部からは建物や井戸跡・溝跡・墓跡など多数の遺構や多量の土器などが見つかりました。集落を巡る濠跡の規模は、長さ東西80m以上、南北130m以上あり、濠の幅は約６m、深さ1.5m以上で３回以上掘り直されたこともわかりました。建物は５棟がまとまりをもって計画的に建てられ、北端には墓地もありました。付近一帯は久我家の荘園で、遺跡のすぐ西方には北東から南西へ斜めに古道・久我畷が通っていて交通の要衝であったことがうかがえます。当地の町名から久我東町遺跡と名付けられ中世の重要な環濠集落跡として注目されます。

久我東町遺跡の発掘調査のようす

久我東町遺跡推定復元イラスト（西から）
環濠に囲まれて建物が並び、東側には桂川が流れている
（復元案：長宗繁一　イラスト：縄川敏夫）

防御用の環濠北西部　濠は何回も掘り直されている

環濠内に整然と並ぶ建物跡

長方形に掘られた墓跡

集落内から見つかった井戸跡
底に曲物が据えられていた

京都市考古資料館

大正３年に本野精吾の設計で建てられた旧西陣織物館を内部改修し、京都市内の発掘調査・研究の業績を発表・展示するため昭和54年11月に設立されました。特別展と常設展で構成され、約1000点の遺物が展示されています。遺物展示のほかにも、映像やパソコンで旧石器時代から近世にかけての京都の歴史を学ぶことができます。建物は、昭和59年に京都市有形文化財に登録されています。

〒602-8435
京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1
TEL.075-432-3245　FAX.075-431-3307
http://www.kyoto-arc.or.jp/museum/

入館無料・月曜休館（月曜が祝日の場合は翌日）
開館時間／9:00～17:00（入館は16:30まで）

JR京都駅より地下鉄烏丸線「今出川駅」下車徒歩15分
市バス 201・203・59系統「今出川大宮」下車すぐ

❹ 羽束師志水町遺跡

1988～1989年にかけての道路敷設に伴う発掘調査で、平安時代末期から江戸時代中期の建物や溝・柱穴・墓跡などが多数見つかりました。特に室町時代から江戸時代にかけては集落の北側に墓域が設けられ、火葬墓・土壙墓とともに五輪塔を設置したとみられる大小４基の台座と、火葬骨を納める輸入陶磁器や焼締陶器の蔵骨器が周囲に埋葬されていました。北側約200mに位置する久我東町遺跡が短期間に廃絶した環濠集落であったのに対し、当遺跡は平安時代末期から近世まで続く集落であったことが明らかになりました。

発掘調査のようす（平安時代後期）

室町時代末期の礎石建物跡

木棺が埋葬された
江戸時代の墓跡群

花崗岩の切り石を使った台座とその周りにみられる桃山時代の
蔵骨器群跡

❺ 長岡京左京四条四坊四町跡　羽束師遺跡

2000年６月に伏見区羽束師菱川町の神川中学校で行われた発掘調査では、長岡京期から江戸時代の建物跡や溝跡を検出し土器などが出土しました。平安時代の建物跡が見つかったことで長岡京廃都後も居住地として利用されていたことが明らかになりました。鎌倉時代から室町時代には耕作溝や畦が多く見つかっており、この時期に田畑化が進み江戸時代を経て、羽束師菱川地域が耕作地として現代まで続いていることがわかりました。

発掘調査のようす（平安時代～室町時代）

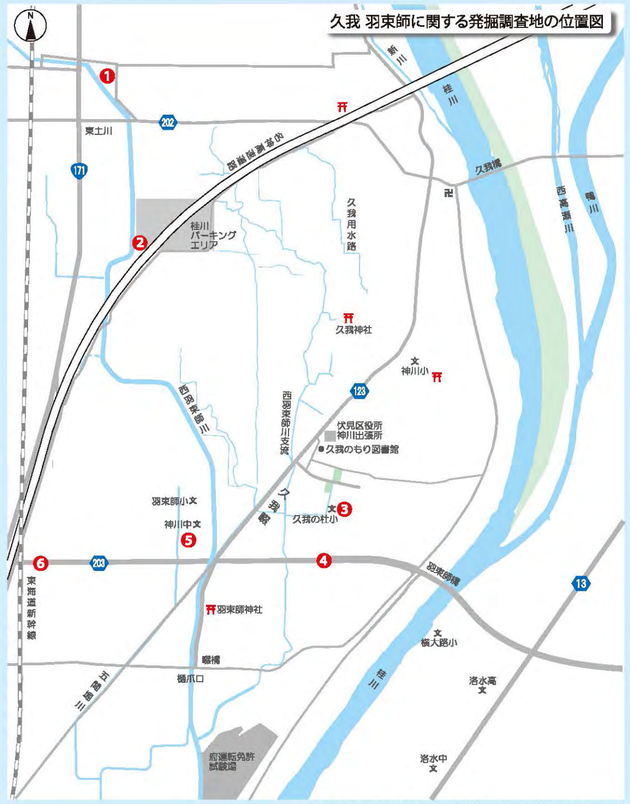
❻ 川原寺跡　長岡京左京五条二坊十六町・三坊一町跡

1987年７月から翌年３月にかけて伏見区羽束師菱川町で道路建設工事に伴う長岡京左京五条三坊一町・八町跡の発掘調査が行われ、古文献に記載された長岡京内の7箇寺の一つである「川原寺」にかかわる遺構が発見されました。現在、長岡京内で知られている寺院は５箇寺あります。川原寺は羽束師菱川町内に残る小字名「東川原寺・西川原寺・下川原寺」を中心とした地内にあったと推定され文献と地名が一致します。発掘調査では、建物の内外の広い範囲に石敷きを施し、建物内に竈（かまど）を並べて使用した跡もみられました。また、寺域内の北西部では板組の溝や大路に開く門と櫓跡など、通常の邸宅にみられない遺構が発見されました。寺の炊事などが行われる大衆院（たいしゅういん）の一画とみられ、川原寺の遺構の存在が明らかになりました。

竈屋とみられる建物跡

長岡京内の寺跡位置図

井戸跡　まわりに礫を敷き詰めた方形の井戸を板組の溝で区画
している



資料提供：公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所